



大聖歡喜天さまを参拝される皆様へ

現世利益最勝と云われる靈驗あらたかな天部の仏様です。一心に信仰すればどんな困難な願いも叶えてくださいます。しかし聖天様の意に反することや粗相があると容赦なく大罰を与える怖い仏様でもあります。聖天様をお祀りし、ご供養するにはたくさんの約束事があり、お祀りできる寺院は年々少なくなっています。永安寺では北陸で唯一、毎月1日から7日までの7日間、早朝未明に相伝の作法をもって御供養し、仏法の興隆と世界平和、そして皆様よりお預かりした御祈願をさせて頂いております。

「子孫七代の福を一代でとる」

どんな願いも叶えてくださる比類なき現世利益の仏様ですが「子孫の代の福まで全部取ってしまう」と、間違った解釈をされることがあります。しかし、正しくは七代分の福を一代に集めるほどの御利益の大きさを表現した言葉ですのでご安心ください。

御真言をお唱えして御祈願をしてください。

「大聖歡喜天御真言」

おん・きりく・ぎやく・うん・そわか

「十一面觀世音菩薩御真言」も併せてお唱えしてください。

おん・まか・きやろにきや・そわか

ご真言の回数、ご祈願の内容は自由です。

・良いご祈願の例

「〇〇家一同の無病息災、身体健全を祈願します」

「〇〇(氏名)が△△高校(大学)に合格できますように御願います」

「〇〇市△△町、〇〇株式会社の社業発展、商売繁盛を祈願します」

・悪いご祈願の例

「私は以後一切〇〇を絶ちますので、どうかこの願いを叶えてください」

「私は今後絶対〇〇をしませんので、△△△できるようにしてください」

- ・ 聖天様に御祈願される際『絶ち物』をするご祈願の仕方は、大きな災いを招くことがあります。一時の感情でのお約束であっても、仏様とのお約束は取り消すことはできません。くれぐれもご注意くださいますようお願いいたします。
- ・ 御祈願されるときは一抹の疑いも持たず、純粋な気持ちですべてをお任せする心構えが大切です。そして、ひたむきに一心にご真言をお唱えしてください。もし願いが叶わぬ時は、まだその時でないか、誤った願いをしているか、聖天様のお気持ちに反するようなお詣りの仕方をしているかです。どんなお願い事も本人の精進努力が肝要です。すべては聖天様の思し召しですから、結果には必ず意味があります。結果が出たら必ずお礼参りを欠かしてはなりません。ひたすらお願い事をしているときよりその願いが叶った時の方が大切です。聖天様をはじめ、広く神仏に感謝のお礼をするとともに、世のため人のための布施行を心掛けないと続いてご利益はいただけません。いつまでも「我欲」ばかりお願いする人は、やがて天孫に見放されてしまいます。世のため人のために尽くす。これは一見損をしているように思えるかもしれませんが、この布施行の「徳」は神仏がちゃんと預かってくださっています。「徳」は人間が唯一あの世に持っていけるものであることを忘れてはなりません。



大聖歡喜天さまについて

インド名 ガネーシャ

性格 父はヒンドゥー教の破壊神であるシヴァ神、母はパールヴァティー
父の性格を受け継ぎ、怒りに触れると大変怖い神様です。

ご利益 現世利益、一生懸命に信仰すればどんな困難な願いも叶えてくださいます。
夫婦和合、子授けの神としても信仰を集めています。

お姿 象面人身で単身像と双身像(二体抱擁像)があり、双身像は十一面観音の化身である女神が聖天様
と抱き合っています。女神は短気で乱暴者の聖天様を抑えている姿と云われています。
いいつたえによると、短気な父に逆らったガネーシャは首をはねられてしまうのですが、後から父が
哀れに思い近くを通った象の首をはねて、息子の体にくっつけたので像の頭なのだそうです。

嗜好 聖天様の好物は、大根、歡喜団(特製の餡が入った巾着の菓子)栗や小豆を原料とするお菓子。
また、寺伝によると永安寺でお祀りしている聖天様は梨と茄子がお嫌いです。

由来 父の血を受け継ぎ、傍若無人の神でしたが十一面観音様に諭され、お釈迦様に帰依し、仏法守護の
尊格「大聖歡喜天」となられました。

特徴 衆生の願いをことごとく成就してくださる仏様なら、全国どこの寺院にもお祀りしてあっていいと思われ
がちですが、聖天さまは忌み嫌われるものが多く、お祀りする作法もたいへん細かく沢山あります。特
に死と血は神道でも禁忌として扱われますが、聖天様にも禁物です。したがって、聖天様をお祀りする
寺院で葬式を営むことはありません。葬儀に関わった人は三週間は聖天様に近づけません。
女性も月のものの最中は御前に上がることはできませんので、女性の僧侶はお祀りができません。
厳格な作法とも相まって、ご供養できるお寺が少ないのはこのためです。

エピソード.1

豊臣秀吉は京都伏見の醍醐寺三宝院に聖天様を寄進し、ことあるごとに自ら醍醐寺に足を運び、礼拝
供養し祈願しました。そしてついに一平民から天下人となる大願を果たし、天下統一を成し遂げました。

エピソード.2

徳川家康も聖天様の信仰者でした。家康をはじめ、二代秀忠、三代家光と徳川三代の相談役として仕
えた天海大僧正という方がおられます。家康の御霊を「東照大権現」として日光にお祀りした方です。
優れた聖天行者でもあった天海僧正は、將軍の難しい相談には聖天様への供養によってインスピレ
ーションを得ていたと云われています。徳川三百年の太平の世は、聖天様のご加護によるものでしょう。

天尊は人の喜ぶものばかりをお授けにはなりません。

苦難を好む人はいませんし幸運を嫌う人はいませんが、人の世は選好みを許しません。どちらかを取
る人はもう一方も必ず取ることとなります。楽は苦の種、苦は楽の種。苦を通り抜けたところに次の幸
運の入口があるのです。苦を避けてばかりいる人は幸運も受け取れなくなります。

天尊は時には愛する者を不運の中に鍛え、その信仰をいやがうえにも充実させようと成されることが
あります。それに耐えることができる人は不運の中に光明を見出し、苦難の一つ一つも新たな登り
階段とすることができるでしょう。それは天尊の思し召しに叶った人になる修行なのです。